

## 船舶事故調査報告書

平成 30 年 9 月 19 日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	平成 30 年 5 月 5 日 14 時 00 分ごろ
発生場所	香川県土庄町北浦港西方沖 讃岐干振島灯台から真方位 087° 3.9 海里付近 (概位 北緯 34° 32.0′ 東経 134° 14.5′)
事故の概要	ヨットかもめは、漂泊中、浅所に乗り揚げた。
事故調査の経過	平成 30 年 5 月 17 日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	ヨット かもめ、5 トン未満 (7.00 m)
船舶番号、船舶所有者等	242-12172 岡山、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、一級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	フィンキール下端に擦過傷
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北西、風速 約 11 m/s、視界 良好 海象：波高 約 1 m、潮汐 下げ潮の初期
事故の経過	<p>本船は、船長が 1 人で乗り組み、北浦港西方沖で帆走し、船長が、土庄町小島東方の島陰に入ったので、北西風を避けられると思い、帆を畳んで帆走から機走に切り替える作業（以下「本件作業」という。）を行いながら、漂泊していた。</p> <p>本船は、北西風により東方に圧流され、北浦港西方沖の浅所に乗り揚げた。</p> <p>船長は、小島東方の島陰に入れば、北西風が遮られてその間に本件作業ができると思ったが、陸岸に近寄り過ぎたので、もっと広い水域で本件作業を行えば良かったと本事故後に思った。</p> <p>船長は、本船には GPS プロッターが設置されていたものの、本件作業を行っていたので、見ていなかった。</p> <p>本船の喫水は、フィンキールの下端まで約 1.9 m であった。</p> <p>船長は、救命胴衣を着用していた。</p>
分析	本船は、北西風が吹く状況下、北浦港西方沖において漂泊中、船長が陸岸近くで本件作業を行ったことから、北西風により東方に圧流され、同港西方沖の浅所に乗り揚げたものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、北西風が吹く状況下、北浦港西方沖において漂泊中、船長が陸岸近くで本件作業を行ったため、北西風により東方に圧流され、同港西方沖の浅所に乗り揚げたものと考えられる。
再発防止策	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。

	<ul style="list-style-type: none"><li>・ヨットの船長は、風による圧流を考慮した水域で漂泊及び作業を行うこと。</li></ul>
--	---